

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.27 2007年11月号

事業というものは、成功するよりも成功を持続させる方が難しい、とよく言われます。今月はこれについて京セウの稲盛和夫氏のことばをご紹介します。

稲盛氏の「人生の王道」という本には次のような記述があります。「優秀で、すさまじい情熱を持ち、努力を惜しまない人が、事業を始めて一生懸命に頑張っ、幸運も味方につけたとすれば、かなりの人が成功することでしょう。ところが、その小さな成功が仇となって、驕慢（きょうまん）の心が生まれ、「天狗」になる。そのようにして事業をつぶしてしまった例が、いくらでもあります。」

これは、考え方が対照的な「堀江貴文（ホリエモンです）と稲盛和夫のどちらの経営が正しいのか」という話題が出たことがあるという記述を受けて書かれているくだりです。結果はみなさんもお存知のとおりですが、ホリエモンは特殊な例としても、稲盛氏はこういう失敗は誰にでも起こりうることを前提に、成功を長続きさせるために必要なこととして、煩惱に打ち克つこと、特に「欲望」、「怒り」、「愚痴」（これを仏教では三毒というそうです）を意志の力で抑えることの重要性をお話されています。「怒り」については、過去の「毎日楽しく」でもあまり書いていませんが、9月号で紹介した北川八郎氏は怒りを人類の大きな悪癖として、怒りを捨てることの重要性を多くのところでお話されています。怒り、荒々しいことばを吐くことは、他人を苦しめるだけでなくやがて自分の身を破り、運を狂わせることになるそうです。

この三毒に打ち克つ必要があるのは、成功した人だけだと思えない方がいいことは言うまでもありません。すべての人が、正しく「人生の王道」を生きていこうとする上で重要な考え方だからです。

また、「成功」というのは、必ずしも経済的な成功のことだけとは考えない方がよさそうです。人生を楽しく幸せに生きていくことこそが成功だと私は思っていますが、みなさんはどう思われますか？

